

営々たる崇仁のまちづくり

～京都駅東かくあるべし，エリアマネジメント～



◆開催期間

2013 (平成25) 年

3月1日 (金) ～3月31日 (日)

※下京いきいき市民活動センター1階ロビーにて関連展示を開催

◆記念シンポジウム「京都駅東かくあるべし，エリアマネジメント」

日時：2013 (平成25) 年3月16日 (土) 16時～

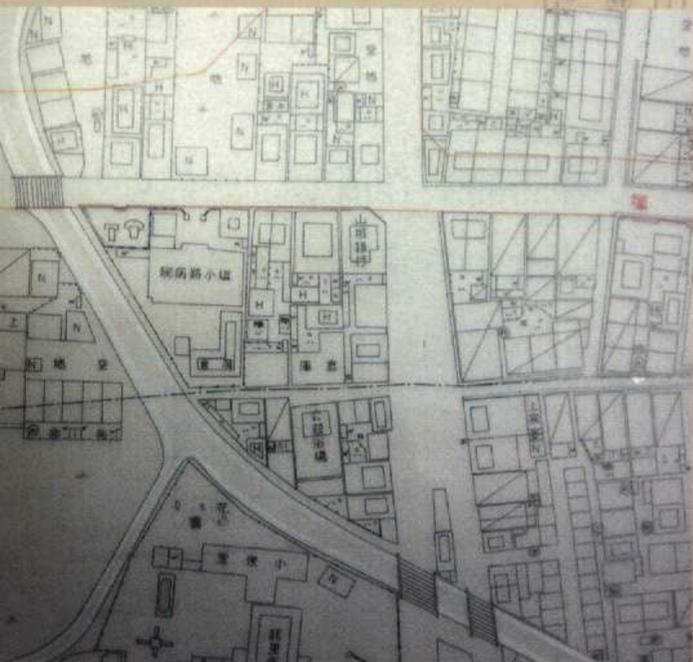
場所：下京いきいき市民活動センター多目的ホール (3階)

報告：奥田正治 (NPO法人崇仁まちづくりの会理事長)

重光 豊 (柳原銀行記念資料館企画運営委員)

山内政夫 (同館事務局長)，山本崇記 (同館学芸員)

※参加無料・申込不要・定員70名 (先着)



柳原銀行記念資料館

問合せ先：☎ (075) 371-0295

開館時間：午前10時～午後4時30分

休館日：月曜日，火曜日，祝日

入館料：無料

交通機関：京都駅 (JR，地下鉄) から徒歩約8分
市バス205系統，17系統「塩小路高倉」下車

※駐車場はありませんので，公共交通機関を御利用ください。

ホームページ

URL：http://web.kyoto-inet.or.jp/org/yanagin/

主催：京 都 市
NPO法人 崇仁まちづくりの会
柳原銀行記念資料館運営協議会

同じです あなたとわたしの 大切さ

平成25年2月発行

京都市文化市民局市民生活部人権文化推進課

京都市印刷物 第244770号



営々たる崇仁のまちづくり

～京都駅東かくあるべし，エリアマネジメント～

開催に当たって

本企画展では、柳原銀行を産み出した崇仁地区のまちづくりの歴史をひもときながら、崇仁のまちづくりが、京都駅東側全体のまちづくりでもあることを知ってもらうために企画しました。

まちづくりの起源について地元に残された資料を読みといてみると、1663(寛文3)年松原稲荷町から六条河原に皮田村が移転し、それと同時に京都の公役を担い、「六条村」として出発したことから始まります(『柳原町史』)。その50年後に、六条河原から現在の地(崇仁北部)へ総合移転します。六条村は幕府や地主である妙法院と交渉し、土地の広さや移転料等について好条件を勝ち取り、住民の願いをかなえます。「営々たる崇仁のまちづくり」はこの時から始まり、次々と土地の拡充(銭座跡村、大西組)も行っていきます。

近代に入ると、鴨川を挟んで存立していた大仏柳原庄から、鴨川の西だけで独立し、小さい自治体「柳原町(庄)」をたちあげます。税金を集め、学校を建設し、地場産業である皮革産業を拡充し、さらに柳原銀行を設立することで小口融資を通して住民の生活を安定させていきます。また、皮革産業では大倉組等の大資本とわたり合うために「京都皮革株式会社」を設立するなど、あらゆる面でまちづくりが進められてきました。

戦後になると、京都市とも連携し、住宅建設や同和教育、雇用促進等にも力を入れていきます。厳しい差別の現実と向き合い、同和対策事業が大きく進んでいきます。特筆すべきは、1996(平成8)年7月に、地元三団体(崇仁自治連合会、部落解放同盟、全国部落解放運動連合会)で「崇仁まちづくり推進委員会」を設立し、それまでの京都市主導のまちづくりから住民主導に切り替えて、停滞していたまちづくりを大きく前に進めたことです。大きな地区ゆえに改良事業が遅れがちであったのを、住民間の意見を住民自身でまとめることに成功したことは社会的に評価されました。

2010(平成22)年には「京都市崇仁地区将来ビジョン検討委員会」が報告書を作成し、崇仁のまちづくりを一地区のみのものではなくて、京都駅東側のまちづくり、すなわち京都市民全体に寄与すべきものとして位置付けました。そして新たに「エリアマネジメント」という手法を活用し、崇仁地区周辺(東西南北)の学区が共に協力することで、住民の力でまちづくりをやり切ろうと、次のステージに進もうとしています。

本企画展では、「営々たる崇仁のまちづくり」の歴史に学びながら、現在展開しつつあるまちづくりに関する資料を紹介することで、多くの方々と住民主体のまちづくりとは何か、考えることができると思っています。是非、皆様の来館をお待ちしています。

最後に本企画展の開催に際し、資料等を御提供、御協力をいただきました皆様に心から御礼を申し上げます。